

【山崎主宰の俳句】

ニーチエ以後

山崎 聰

何かが墜ちる春の淡雪のあと

子猫にもあるあしうらの黒いところ
しょうじ

生死なおおぼろのむこう島泊り

音消せば三百六十度春夜

ぼんやりと亀が鳴くから遠江

いまもなおほのあかくあり春の夢

シネラリア人のうしろを風吹いて

につぼんのうすぐらいところから蝶

ニーチエ以後厨に充ちて春の闇

葉桜と羅漢と町じゅつの二ども